

1 研究主題

楽しく運動し、技能が身に付く体育授業を目指して（5年次）

2 研究主題設定の理由

「楽しく運動させながら技能を身に付けるにはどうすればよいか」を探って5年目になった。昨年度までに、運動のポイントが「わかる」と目指す動きが「できる」ことをつなぐ授業の構成の仕方にポイントがあることが明らかになってきた。

今年度は、児童が「わかる」ようにする手だてと「できる」ようにするための手だてを順序立てて講じる授業の流れを【学びの道筋】として確立させることを目指すこととした。また、過去の実践から【学びの道筋】のある授業のポイントを洗い出し、8月の市小研研究発表会で、全会員に示すこととした。

3 研究の実際

(1) 主な研修内容

- ①「全体研修～研究の内容及び計画を共通理解する～」(6月)
市小研体育部全会員に、研究の方向について図示しながら説明した。
- ②「全体研修～市小研研究発表会に向けて、全体・ブロックの発表内容を検討する～」(7月)
8月の市小研研究発表会に向けて、発表の内容について意見交換を行った。
- ③「全体研修～市小研研究発表映像を検討する～」(8月)
7月の検討を受けて、修正した市小研研究発表会の発表映像を検討した。
- ④「全体研修～すぐれた授業から授業マネジメントを学ぶ～」(9月)
元筑波大学附属小学校教諭の木下光正先生の授業から、授業マネジメントを学ぶ研修を行った。授業マネジメントは、児童の【学びの道筋】をスムーズにすることを再確認した。
- ⑤「授業研修」(11月)
5年間の研究のまとめとして行う12月の指導案の検討会をブロックごとに行った。
- ⑥「全体研修(研推委員による授業)～授業研修の成果を共有する～」(12月)
11月の検討会での意見を生かして指導案を作成し、ブロックごとに授業研修(授業公開・授業協議会)を行った。授業における【学びの道筋】のよさについて、授業ごとに小グループで話し合った後、ブロック内で成果について共通理解を図った。

(2) 授業実践(12月に実践)

<北・東ブロック>

○5年生：器械運動「かかえ込み跳び(跳び箱運動)」 岡方第二小学校 松本 和大 教諭

<中央ブロック>

○6年生：ボール運動(ネット型)「タッチ&キャッチバレー」 上所小学校 高見 潤 教諭

<江南・秋葉・南ブロック>

○3年生：器械運動「跳び箱運動」 亀田小学校 吉田 研 教諭

<西・西蒲ブロック>

○6年生：ボール運動(ネット型)

「仲間とボールをつないで連携プレー！目指せ！チームアタック」内野小学校 藤本 拓矢 教諭

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- ブロックごとの指導案検討、授業研修を通して、児童の実態をもとにした【学びの道筋】(2つの手だてで段階的に児童の「わかる」と「できる」をつないでいく流れ)の設定の仕方についての理解を深めることができた。
- 5年間の研究の成果である「わかる」と「できる」をつなぐ手だてを、実際の授業場面を示しながら明らかにすることができた。
- 授業マネジメント研修を行い、体育部員一人一人の授業力向上に直接つながる研修を行った。
- 12月には研推委員が授業を公開し、【学びの道筋】をもとにした授業づくりについて、これまでの研究成果を確認することができた。

(2) 課題

- 【学びの道筋】(2つの手だてで段階的に児童の「わかる」と「できる」をつないでいく流れ)を大切にしたい授業実践の領域が狭いことが分かった。1単位時間の授業をもっと多くの領域、学年で実践し、その有効性を明らかにしていく。